

# 情勢報告

大正十一年、全国水平社が結成されるや、永い間社会の域外に置かれ、謂れなき身分的差別に對して、限りない憤懣を抱いて来た全国の被压迫部落大衆は、熱情的感激を以つて之を迎へその運動は部落大衆の凡ゆる層を短時日の間に獲得結集し、驚くべき勢ひで全国に拡大された。

併し乍ら、初期の全国水平社運動は、斗争の對象を「部落民」と「一般民」の對立の中でのみ求め、徹底的亂闘を唯一の戦術とし、それ以外には一歩も出やうとしなかつた、ゆゑ現はれた差別對象が減少するに従つて斗争の對象を見失ひ一時沈滞状態を招来した。

だが、それは決して部落大衆の斗争力の衰退を意味するものではなかつた。それのみか、部落内に於ける資本主義關係の發展と生活の窮乏化と階級斗争の刺激は、部落内の勤勞無産大衆を階級的に成長せしめ、勞働者農民の諸斗争は、激烈な抗争となつて現はれた。

表面的に差別對象の衰退にも不拘、部落大衆に對する封建的身分の差別と社會的無権利状態は實際的には殆ど衰りなく、経済恐慌による勤勞無産大衆の生活の窮乏は、各々の部落に於いて最も際立つた尖锐的存形で現はれ、差別迫害のためドン底に突き陥された生活も消滅し、文化の水準を昂る

ための部落改良施設の要求が漲り、全国水平社運動の衰退にも不拘、部落大衆の獨り／＼と斗争力が成長しつゝあつた。斯る情勢は必然的に、被压迫部落大衆解放のための唯一の斗争組織である全国水平社が適切にして正しく部落大衆の利害を取上げて闘が身分斗争の方針を明示するほは、更に切れた洪水の如くますます激しい勢を、新しい希望と意氣に燃ゆる斗争が再建さるべく條件づけられてゐた。

果然、昭和七年の終り頃より福岡県その他の地方に於いては、地方改善所施設費等の問題を中心に、部落委員会活動が捲き起され、部落改良施設獲得斗争を通じて全国水平社運動の新しい進路が展開されつつあつた。

(一)

斯かる情勢と実践の上になつて、昭和八年三月三日の水平デーを期し、福岡県に於いて挙行された第十一回全国大会は、従來の一切の偏向を清算し、當面の情勢に適合した斗争方針を決定し、希望と確信に満ちた「部落委員会活動」の展開を指示した。かくして昭和三年頃から沈滞してゐた全国水平社運動は、第十一回全国大会后上何線を切り除々に各地方情勢は老氣を呈しつゝあつた。更に今年五月二十五日に開催された第二回中央委員会、部落委員会活動に関する具體的方針を決定し、再建斗争の陣容を完全に整へた。

斯る時、新松地方裁判所に於ける差別裁判事件が勃発し、此の全国水平社運動再建斗争の全國的展開と相事を加へたのである。これは天下周知の如く、部落出身の文士

(二)